大隅教育事務所だより
一隅を照らす山と野と渚の教育
～心に灯をともし，郷土に誇りをもち，夢を育む大隅の教育～

第１号
令和７年
７月１日発行

子供の可能性を信じ，本気で取り組む「魅力ある学校づくり」

大隅教育事務所長　原田　浩毅

今年度の大隅地区の**最重点課題に「確かな学力の育成」**を掲げています。なぜ「確かな学力」を身に付ける必要があるのでしょうか。現在，人口減少，超高齢化社会を迎え，人工知能の普及やインターネットの生活への浸透により，社会や生活が大きく変わり，**変化の激しい未来**が到来しつつあります。そのような中，私たち教育に携わる者は，社会が変化し，予測困難となっても，**子供たちが，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，判断して行動し，自立した存在として社会の一員となり，それぞれに思い描く幸せを実現して欲しい**と考えています。そのために**必要な力が，「生きる力」でありその一つの柱が「確かな学力」**です。

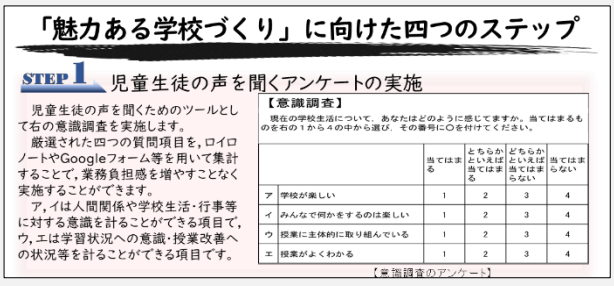
本地区では「確かな学力の育成」の目標を「『鹿児島学力・学習状況調査』において ①非認知能力に関する質問項目で『県平均』，②経年変化による結果の向上，③全教科で『県平均』」としていますが，令和6年度は厳しい結果となりました。しかし，**体力・運動能力はここ数年向上傾向**にあります。そのような体力を向上させた**学校，家庭，地域の教育環境**，何よりも**子供たち自身が持っている資質能力と可能性**があれば学力等の諸課題は必ず解決できます。さらに，本地区は，地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるコミュニティスクールの組織率が高く，**「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」が推進**されています。

具体的には，今回の教育事務所だよりに掲載したとおり，**「魅力ある学校づくり」とその中核となる「授業改善」等**に，学校・教育委員会・教育事務所等が一丸となって，**子供の可能性を信じて本気で取り組む**ことができれば，教職員，子供，学校，地域社会は，必ず良い方向へ変わります。今こそ，**「大隅は一つ」となって子供・保護者・地域・教職員等の笑顔あふれる「魅力ある学校づくり」を実現させましょう。**

「魅力ある学校づくり」四つのステップ

近年，小中学校における不登校児童生徒数は増加傾向にあり，各学校では「不登校が生じないような学校づくり」に向けた取組の一層の充実が求められています。**不登校への対策を考える際に重要になるのが，不登校数を「新規数」と「継続数」に分けて捉えることです。**なぜなら，不登校数が増えているように見えるのは，毎年新たに不登校になる児童生徒（新規数）がいることが大きく影響しているためです。この**「新規数」を減らすためには，全ての児童生徒が「明日も学校に行きたい」と感じられるような「魅力ある学校づくり」が不可欠です。**そこで本年度，大隅教育事務所ではその実現に向けたリーフレットを作成し，地区内の全ての先生方に配布しました。四項目のアンケートの実施から，結果の分析，共通実践の設定，そして年３回の PDCA サイクルによる改善という取組の流れを，四つのステップで整理しています。

全ての児童生徒にとって「明日も学校に行きたい」と思える学校は，私たち教職員の日々の関わりや声掛けの積み重ねから生まれます。日頃の実践を振り返り，「この活動は児童生徒にとって魅力的だろうか」という視点をもって，主体的に「魅力ある学校づくり」に取り組んでいただければと思います。



リーフレット「『魅力ある学校づくり』の推進」から一部抜粋

授業改善の出発点は子供から

「教師がやりたい授業と子供が学びたい授業」今日の授業は，どちらの授業でしたか。

学習者主体の授業が求められる今，**「子供は何を，どのように学びたいか」「どのような学びが合っているのか」などの視点をもつことが大切**です。もちろん，教材研究や指導方法の工夫も必要ですが，その前に，**まず子供一人一人を深く見つめることから始めてみませんか。**子供を主語にした授業改善を学校全体で取り組むために，次のようなサイクルに取り組んでいきましょう。

「子供を主語にした授業改善のサイクル」

STEP1 「子供は何を，どのように学びたいか」「子供には，どのような学びが合うのか」など，子供の学びを探ってみましょう。
◆鹿学調のクロス集計（児童生徒質問調査と正答率）や，全学調の「質問紙」の分析が効果的です。

STEP2 「授業の中で引き出したい子供の姿」を検討し，目指す子供像を設定しましょう。そして，全職員で共有しましょう。

STEP3 「大隅学力向上リーフレット」を参考に，学校で取り組みたいことを決めましょう。そして，実践していきましょう。

STEP4 演習問題等で子供の学びの状況を見取り，授業を評価したり，指導方法を改善したりしていきましょう。

年間3サイクルを目指し，子供の姿を見取り，分析し，常に授業改善し続けていくことが大切です。

体力・運動能力の向上

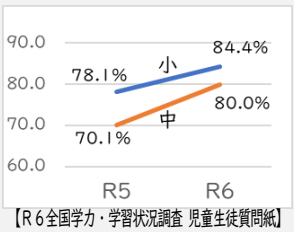
鹿児島県では令和３年度から「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業を展開しています。今年は５年目となり，中間地点となります。各学校では育成推進プランを作成し，課題解決へ向けて取組が進められています。取組の成果や課題を明確にし，工夫・改善に努めましょう。

『ワンポイントアドバイス』

「ソフトボール（ハンドボール）投げだけが伸びない！どうすれば伸びるのか？」

走ったり跳んだりすることができるのであれば，**「タイミング」**に着目しましょう。**下肢と上肢の連動**がうまくいくと，より遠くに投げられます。「めんこ」を遊びの中に入れてみるのもいいです。

「地域のために何かしたい！」高まる子供たちの意欲



【R６全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

昨年度の全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の結果から**「地域や社会をよくするために何かしてみたい」**と思う子供たちの割合は前年より**約10ポイント上昇**しました。子供たちの地域へ貢献したいという意欲が高まっていることが分かります。こうした意欲を育み，「自分も地域の一員だ」という意識をもたせるためには，**子供たちが地域と関わる体験の場**をつくることが重要です。学校が地域の拠点となり，地域と連携して行事や活動を行うことで，子供たちは地域とのつながりを実感できます。また，地域との交流により，世代間の絆も深まります。**学校・家庭・地域が一体となった取組**をお願いします。

地区人権教育授業実践会

６月３日（火），錦江町立田代小学校において，標記の研修会を開催しました。午前中は参加型学習を通して「人権教育の指導方法等の在り方」について学ぶとともに，各学校における人権教育の課題や推進の工夫について話し合いました。午後は同校の浜崎教諭により，６年生社会科の教科書無償給与制度から「教育を受ける権利」について考える授業が行われました。研修後には，**「人権教育の重要性を再認識しました。子供たちの人権感覚を育む日々の実践に努めていきたい」**といった感想も寄せられ，人権同和教育に関する指導の在り方を見つめ直す機会となりました。**今後も多様な研修に積極的に参加いただき，人権が大切にされる取組が推進されることを期待しています。**

学校での「梅雨型熱中症」対策 ～暑さ指数（WBGT）に注意した安全な運動の推進～

「梅雨型熱中症」をご存じですか。気温は高くなくとも，湿度が高いために汗が蒸発しにくくなり，体に熱がこもって起こります。じわじわ進行するため，気付いたときには重症化していることもあります。**室内で発生することが多いため，油断せず，水分補給やエアコン調整を行いましょう。**

令和７年６月１日には改正労働安全衛生規則が施行され，**職場における「熱中症対策」が強化されました。**詳しくは厚生労働省のホームページを御覧いただき，対応をお願いします。